

(社)日本原子力学会
第29回倫理委員会議事要旨

日 時 H18.11.21(火)10:00~12:10
場 所 東京工業大学田町キャンパス C I C C O E 会議室
出席者 北村、大場、班目、安濃田、小沢、鐘ヶ江、作田、谷、鳥飼、中安、萩原、
三好、森、矢野の各委員(14名)
志賀松(傍聴者)

配布資料

- 資料 29 - 1 第 28 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 29 - 2 (欠番)
- 資料 29 - 3 科学研究費申請について
- 資料 29 - 4 2007 年春の年会企画セッション提案書
- 資料 29 - 5 第 6 回原子力に関する倫理研究会 CD-ROM 作成と販売予定について
- 資料 29 - 6 第 7 回「原子力に関する倫理研究会」関係資料
- 資料 29 - 7 CSR タスクチームの今後の活動について
- 資料 29 - 8 技術倫理協議会関連の報告
- 資料 29 - 9 「技術者の倫理ケースブック」購入リスト(非公開)
- 資料 29 - 10 2006 年「秋の大会」倫理委員会セッション議事録(案)
事例研修の意義と課題; 倫理規程の浸透を目指して

議事

1. 森委員より自己紹介があった。
2. 資料 29 - 1 の前回議事要旨を確認した。関連して、技術者の倫理ケースブックは 2000 冊増刷したことの報告があった。
3. 班目幹事より倫理規程の検討状況の説明があった。前期委員会で保留となっていた事項や理事会からのコメント、委員からの修正提案のそれぞれについて、ほぼ対応案がまとまりつつある。しかし、第 20 回倫理委員会が出された「次期の倫理規程の改訂では、放射性廃棄物の埋設を視野に入れた環境の問題や労務管理に関する問題など、視野を広げた検討をすべきだ」との発言への対応はアンケート方式では議論が深まらないので、意見交換を行った。公衆の安全は規程に十分記載されているが、労働安全が明示的には取り上げられていないこと、ワーク・ライフ・バランスなどの観点からも検討が必要などという意見があった。環境の問題は世代間倫理の問題としても十分議論し、取り上げるべきとの意見が出た。今後それらの意見を踏まえ、更なる意見交換をアンケート方式で続けることとした。他に、倫理問題に直面した場合の対処方法のヒントを行動の手引の最後に掲載する件については、提案者の作田委員に原案を考えていただき、検討することとした。また、非公開情報の定義を脚注等で載せるべきとの提案があり、班目幹事が原案を検討すること

となった。

- 4 . 中安委員より資料 29 - 3 を用いて、科研費の申請を行ったことの報告があった。外部資金の獲得については今後もできるだけの努力をすることを確認した。
- 5 . 安濃田委員より資料 29 - 4 に基づいて、2007 年春の年会企画セッションの内容説明があった。倫理委員会の活動紹介のほか、学会発表における連名のあり方や受託契約と著作者人格権のバランスのとり方などについての議論をテーマとすることが説明され、基本的には了承された。連名のあり方についてはガイドライン作成までが学会のすべきことであり、その遵守は説明責任を果たすことまで含めて研究者個人に任されていることを再確認した。その上で、ガイドライン作成に関しては倫理委員会としても応分の協力をすることとした。契約における著作者人格権の扱いに関しては、契約に係わる者双方が訴えられたりしないよう覚書で対応する解決策もあることが紹介された。倫理委員会としてはその覚書のたたき台などを提供する形で企画委員会に協力するが、それに特化した議論をする場として企画セッションを使うことはしないこととした。すなわち、企画セッションは連名や契約のような問題について考える機会を学会員に提供する場とすべく、努力することとした。セッションタイトルは「学会活動の倫理」というよりも少し広げた「学会活動に関わる倫理」のようなものとする方向で検討すること、個別の講演タイトルも「受託契約のありかたについて」では具体的過ぎるので再検討を依頼することになった。なお、倫理委員会における最近の議論内容の紹介は大場副委員長の担当とする方向で考えることとした。
- 6 . 中安委員より資料 29 - 5 に基づいて第 6 回原子力に関する倫理研究会 CD-ROM の作成状況の報告があった。価格 1000 円で販売することとした。
- 7 . 小沢委員より資料 29 - 6 を用いて第 7 回原子力に関する倫理研究会の内容説明があった。
- 8 . 中安委員より資料 29 - 7 を用いて CSR タスクチームの今後の活動について説明があった。CSR にあるが倫理規程に書かれていないことが分かり、今後規程に取り入れることを検討すべき内容が見えてくるなど、興味深い結果が出てきている。倫理規程は賛助会員を拘束するのかなど、明確になってきた諸問題について再度しっかり議論すべきとの発言があった。
- 9 . 鳥飼委員より資料 29 - 8 に基づいて技術倫理協議会と技術倫理協議会公開シンポジウムの報告があった。
- 10 . 事務局より資料 29 - 9 に基づき技術者の倫理ケースブックは 4000 部がほぼ完売となった旨の報告があった。
- 11 . 作田委員より資料 29 - 10 の 2006 年秋の大会企画セッション報告が紹介された。
- 12 . 大場副委員長より、ホームページの更新が年度内には終了する予定であることが報告された。
- 13 . 美浜原子力発電所事故について、その後の関西電力の対応状況等を踏まえて倫理委

員会としての見解を再度出すこととした。

14．次回は1月31日の午後に学会会議室で開催することとした。